

日本免疫毒性学会 2021 年総会審議記録

1. 日時等

- 形式：メールによる開催
- 日程：2021 年 9 月 2 日（水）～9 月 14 日（火）
審議事項回答期限：9 月 14 日（火）13:00

2. 審議結果：

2.1. 審議事項

回答 20 名全員の賛成により可決

- 会計：2020 年度決算案・監査報告
- 人事：名誉会員、理事、新評議員、次々期年会長（第 30 回年会）
- 事業計画、2022 年度予算

2.2. その他

意見無し

日本免疫毒性学会 2021 年 総会

方法：メールによる総会

日時：2021 年 9 月 8 日（水）～9 月 14 日（火）

議事次第

I. 報告事項

[1] 総務報告（久田総務委員長）

[2] 学術年会報告

- ① 第 27 回開催報告（角田前年会長）
- ② 第 28 回開催状況（手島年会長）
- ③ 第 29 回準備状況（小島次期年会長）

[3] 委員会報告

- ① 学術・編集委員会（小島委員長）
- ② 広報委員会（西村委員長）
- ③ 試験法委員会（申間委員長）
- ④ 連携学会委員会（吉岡委員長）
- ⑤ 将来構想ワーキング・グループ（黒田理事）

[4] 事業報告（中村理事長）（業務年度：10 月から翌年 9 月末）

II. 審議事項

1) 会計（小池理事）（会計年度：4 月から翌年 3 月末）

- ① 2020 年度決算
- ② 2020 年度監査報告（野原監事、森本監事）

2) 人事（久田総務委員長）

- ① 名誉会員
- ② 評議員候補
- ③ 次々期年会長

3) 事業計画（中村理事長）及び 2022 年度予算（小池理事）

III. 添付資料（会計）

2020 年度決算、同監査報告書、2022 年度予算案

I. 報告事項

[1] 総務報告

① 会員数 (2021年7月16日現在)

◆2020年度の会員数(2020/4~2021/3)

会員種別	4月	3月	増減
一般会員	157	162	5
学生会員	16	10	-6
賛助会員	0	1	1
名誉会員	12	12	0
総数	185	185	0

◆2021年度の会員数(7月16日現在)

会員種別	4月	7月	増減
一般会員	162	169	7
学生会員	10	14	4
賛助会員	1	1	0
名誉会員	12	12	0
総数	185	196	11

② 入退会状況 (2020年度、2021年7月16日現在)

◆2020年度入退会(2020/4~2021/3)

会員種別	入会	退会	増減
一般会員	11	6	5
学生会員	2	8	-6
賛助会員	1	0	1
合計	14	14	0

退会者のうち一般2名、学生8名は会則(会員)
第5条(2)により退会(会費未納による退会)

◆2021年度入退会(7月16日現在)

会員種別	入会	退会	増減
一般会員	7	0	7
学生会員	5	1	4
賛助会員	0	0	0
合計	12	1	11

一般会員7名中5名が初年度年会費無料の会員

③ 役員数 (2021年7月16日)

◆2020年度役員

	4月	10月	3月
理事	20	20	20
評議員	46	48	48
監事	2	2	2

◆2021年度役員

	4月	10月	3月
理事	20	—	—
評議員	48	—	—
監事	2	—	—

④ 学会 Web サイトバナー契約現状

現在掲載中	ミルテニーバイオテク株式会社	5/1 更新
(3社)	ライカマイクロシステムズ株式会社	5/1 更新
	フォーネスライフ株式会社	5/1 更新
	ベックマン・コールター株式会社	4/30 解約

⑤ 会議の開催

運営委員会 第71回	2020年12月24日	Web会議にて開催	
	第72回	2021年7月22日	Web会議にて開催
理事会	2021年度理事会	2021年9月3日	Web会議にて開催

総 会 2021 年度総会：2021 年 9 月 8 日～9 月 14 日の審議期間
で開催

メールベース

学会賞・奨励賞の推薦依頼（2020 年 12 月～2021 年 2 月末）

会費納入アナウンス（2021 年 4 月、7 月、8 月）

評議員推薦の案内（2021 年 7 月 13 日～8 月 16 日）、推薦資料のとりまとめ

学会賞・奨励賞の賞状と記念品の準備

[2] 学術年会報告

[2-1] 第 27 回 (オンライン開催)



1) 実施概要

期日 2020.9.26-27.

方式 オンライン開催 (あすか製薬 Zoom webinar システムを使用)

年会長 角田正史 (防衛医科大学校医学教育部衛生学公衆衛生学講座)

テーマ 免疫毒性学の過去、現在、未来

年会賞 佐々木泉先生 (和歌山県立医科大学大学生体調節機構研究部)

学生・若手優秀発表賞 村田雄飛先生 (大阪大学大学院薬学研究科)

共催 日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会

協賛 日本毒性学会

2) 第 27 回日本免疫毒性学会学術年会報告

角田 正史 (防衛医科大学校医学教育部衛生学公衆衛生学講座)

<演題数>

	JSIT2020 Web 開催	JSIT2019 北九州	JSIT2018 つくば	JSIT2017 十和田	JSIT2016 北九州
ポスター	16	31*	26*	22*	16*
一般口演	—	12	10	11	10
若手	8	13	9	3	2
一般 +若手演題数	8	43	36	33	26
総会	メール開催	1	1	1	1
受賞講演	3	3	2	2	2
ランチョン	—	2	2	2	2
シンポジウム	3	4	4	4	4
試験法 WS	4	6	3	4	4
特別講演	—	1	1+ IS 2	2 +Keynote 1	1
教育講演	—	2	1	1	3

*ポスターには、学生・若手優秀発表賞応募者を含む。

<学術年会参加者>

	参加登録	9/26	9/27	2 日間
学会員	101	83	80	88
学生会員	7	6	4	6
非会員	32	28	22	29
新会員	9	8	6	8
新学生会員	2	2	1	2
計	133	111	102	117 名 (16 名欠席)
同時ビュー最大数	—	90	86	—

市民公開講座：中止

<学術年会参加費>

学会員は無料、非会員は 2000 円とした。

<審査関連>

年会賞受賞者：佐々木泉 先生 (和歌山県立医科大学生体調節機構研究部)

「The roles of unfold protein responses in cholera toxin B-induced interleukine-1 β production」

学生・若手優秀発表賞受賞者：村田雄飛 先生（大阪大学大学院薬学研究科）

「骨髄由来免疫抑制細胞を介する G-CSF の免疫毒性発現メカニズムの解析」

[2-2] 第 28 回@オンライン大会 手島年会長

第28回
日本免疫毒性学会学術年会
The 28th Annual Meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology

共同開催 第78回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会

2021年
日程 9月6日(月)～7日(火)

会場 ウェブ開催

年会長 手島 玲子
(岡山理科大学獣医学部食品衛生講座)

自然免疫と獲得免疫のかかわりと免疫毒性

主催：日本免疫毒性学会
共催：日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会
協賛：日本衛生学会、日本食品衛生学会、日本毒性学会、
日本毒性病理学会、日本薬学会(50首順)
後援：日本アレルギー学会

〒794-8555 愛媛県今治市いごいの丘1-3
岡山理科大学獣医学部食品衛生講座
大会HP <http://www.jsit2021.jp>
Email 28th-info@jsit2021.jp

- 1) 期日：2021年9月6日(月)～7日(火)
- 2) 会場：Web開催(2021年6月7日決定)
- 3) テーマ：自然免疫と獲得免疫のかかわりと免疫毒性
- 4) 年会長：手島玲子 岡山理科大学獣医学部食品衛生講座教授
- 5) 大会ホームページ：<http://www.jsit2021.jp>

6) 大会の主な内容

■特別講演

1. 樹状細胞を利用した新しい免疫療法 藤井眞一郎先生（理化学研究所生命医科学研究センター免疫細胞治療研究チーム）
2. Immunogenicity-related toxicity Dr. Jeanine Bussiere (Scientific Executive Director of Toxicology, Amgen com.)

■シンポジウム

「種々のワクチンの開発状況とその安全性評価について」

1. MicroRNA とワクチン接種時の炎症 押海裕之先生（熊本大学大学院生命科学研究部免疫学講座教授）
2. 経鼻ワクチンの安全性 幸義和先生（㈱HanaVax 取締役 最高技術責任者）
3. ヒト化マウスを用いるワクチンの安全性評価法 佐々木永太先生（国立感染症研究所血液・安全性研究部）

■教育講演

1. 進化から見たアレルギー疾患の意義（自然リンパ球(ILC-2)の役割も含めて） 松本健治先生 国立成育医療センター研究所免疫アレルギー・感染研究部）
2. 新型コロナワクチンについて 吉川泰弘先生（岡山理科大学獣医学部学部長）

■学会賞受賞講演

ダイオキシンの免疫毒性作用とそのメカニズム 野原恵子先生（国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター）

■学会奨励賞受賞講演

骨髄由来免疫抑制細胞を介した免疫毒性発現に関する研究 立花雅史先生（大阪大学大学院薬学研究科 附属創薬センター ワクチン・免疫制御学プロジェクト）

■試験法ワークショップ

「In vitro 免疫毒性試験法の開発とガイダンス化に向けて」

1. Multi-ImmunoToxicity Assay とガイダンス化状況 相場節也先生（東北大学病院皮膚科）
2. 皮膚感作性試験（ADRA 試験）の開発 藤田正晴先生（富士フィルム安全性評価センター）
3. 皮膚感作性 -IATA に基づくガイドライン 足利太可雄先生（国立医薬品食品衛生研究所）

■一般演題（口演、ポスター）

一般で 22 題、学生・若手部門で 8 題の演題が集まった。学生・若手部門の 8 演題については口頭とポスターの両方の発表で、一般演題については、口頭で 7 題、ポスターで 15 題の発表となりました。なお、ポスターは、web 開催サイトに(9 月 3 日-7 日)掲示してオンデマンド配信し、口頭発表は年会当日にライブ配信しました。

■賞

- ・年会賞：青山道彦先生（国立医薬品食品衛生研究所生物薬品部），Fcγ receptor-dependent internalization and off-target cytotoxicity of antibody-drug conjugate aggregates.
- ・学生・若手優秀発表賞：加藤喬先生（和歌山県立医科大学生体調節機構研究部），Molecular mechanisms of type I interferonopathy in a novel COPA syndrome model mouse.

[2-3] 第 29 回@札幌 小島次期年会長

- (1) 場所：アスティ 45・16F（ACU 札幌）〒060-0004 札幌市中央区北 4 条西 5 丁目
- (2) 日程：2022 年 9 月 12 日（月）～13 日（火）
- (3) テーマ：免疫毒性と疾患－新たな軌跡を描く－
- (4) 事務局：寺崎将、窪田篤人、小島弘幸（北海道医療大学薬学部 衛生薬学講座）、吉田貴彦（旭川医科大学 社会医学講座）、室本竜太（北海道大学大学院薬学研究院 衛生化学研究室）
- (5) 企画委員：吉岡靖雄（大阪大学微生物病研究所 BIKEN 次世代ワクチン協働研究所）、黒田悦史（兵庫医科大学 免疫学講座）
- (6) ホームページ：準備中
- (7) 特別講演・シンポジウム・教育講演・試験法 WS

■特別講演 1：炎症性腸疾患に関連したご演題 金井隆典先生（慶応義塾大学医学部内科学・教授）

■特別講演 2：Dr. Jamie C. DeWitt (Professor, Department of Pharmacology & Toxicology, East Carolina University)

■シンポジウム「免疫毒性研究から捉える疾患との関係（仮）」

4 演題で検討中 –シンポジスト未定

理想：30 歳代の若手であり、大学 2・研究機関 1・企業 1 で構成

■教育講演 1：新型コロナウイルスに関連した演題で検討中 –演者未定

■教育講演 2：がん予防に関連したご演題 浅香正博先生（北海道医療大学・学長）

■試験法ワークショップ：本学会試験法委員会による企画

[3] 委員会報告

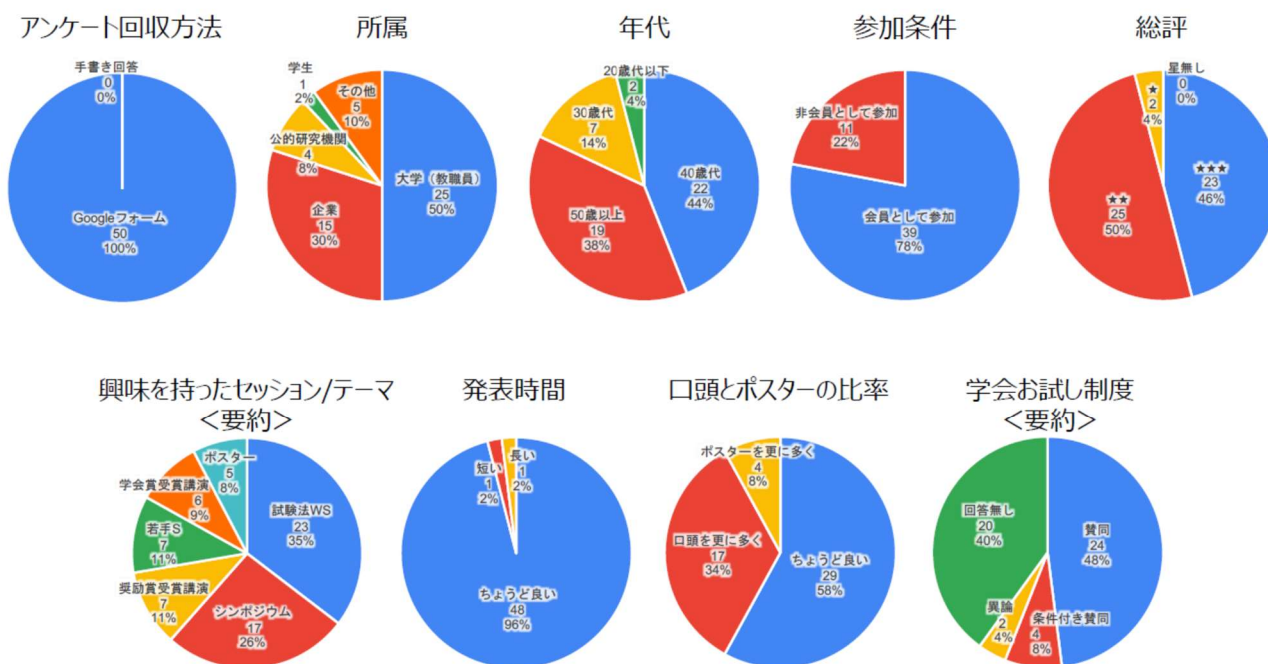
[3-1] 学術編集委員会

1) 第 27 回年会時アンケート結果

2020 年 9 月 26 日から 27 日に新型コロナウイルス感染拡大防止のため急遽 Web 形式にて開催されました学術年会期間中および年会後に参加者へ下記内容のアンケートを行い 50 件の回答を頂きました。集計結果を纏めました。選択式質問への回答、および ②と ①の記述回答についても要約をグラフ

化し、ImmunoTox Letter 50 号（2020 年 12 月）に掲載しました。記述式質問への回答は分類し一覧表として別途纏めました。これらを含む全回答結果を学会 HP の学術年会のページ内の第 27 回学術年会欄に掲載しました。

第27回日本免疫毒性学会学術年会アンケート結果（選択式質問回答および2.1)-②, 2.2)-①の回答要約）



2) ImmunoTox Letter の発行（新藤編集長）

Vol.25 No.2（通巻 50 号）を 2020 年 12 月 28 日に、Vol.26 No.1（通巻 51 号）を 2021 年 7 月 13 日に発刊した。

3) 2021 年度学会賞・奨励賞の選考結果について

学会賞奨励賞選考委員長 手島玲子先生（任期：～2021 年年会開催時）のもと、4 名の選考委員が組織され、3 月 25 日に受賞の選考結果が報告された。

- ・学会賞 野原恵子先生（国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター）
ダイオキシンの免疫毒性作用とそのメカニズム
- ・奨励賞 立花雅史先生（大阪大学大学院薬学研究科 附属創薬センターワクチン・免疫制御学（BIKEN）共同研究講座）
骨髄由来免疫抑制細胞を介した免疫毒性発現に関する研究

[3-2] 広報委員会

2020年10月以降現在までに以下を行った。

1) 学会HPの更新・・・福田印刷（加古様）への依頼

- (1) 役員の更新 (2020.10.6)、評議員新任 (20.7.20、10.16) JE、役員所属変更 (2021.7.15) JE
- (2) リンクバナー広告の掲載 (4件成約済) J
 - ミルテニーバイオテック株式会社 (2020.9～)
 - ベックマン・コールター株式会社 (2020.10～)、契約終了につき削除 (2021.4.30) J
 - ライカ マイクロシステムズ株式会社 (2020.10～)
 - フォーネスライフ株式会社 (2021.1～)
- (3) 学会賞・奨励賞ページの更新
 - 2021年度 募集要項 (2020.12.7)
 - 第10回 2020年 受賞者 (2020.12.10)
- (4) 学術年会関係
 - トップ、次回 (2021, 手島先生)、次々回 (2022, 小島先生) 年会のお知らせ (2020.12.28) JE
→下に上記予告ページへの誘導リンクを貼り付け
 - 学術年会ページ、第27回学術年会 (2020, 角田先生) 概要、アンケート結果 (2020.12.28) J
(2021.6.11) E
 - トップ、次回 (2021) 年会へのHPリンク<http://www.jsit2021.jp>掲載 (2021.3.18) JE
 - トップ、次回 (2021) 年会内の開催形式の変更 (→Web開催) (2021.3.18) JE
- (5) ImmunoTox Letterページ関連
 - ImmunoTox Letter vol. 25, No.2 (通算50号) 発刊 (2020.12.28) JE
 - サムネイルをカバーページの的に恒久的に表示するように変更 (下図参照)
 - ImmunoTox Letter内 第28回学術年会 (予告1) ページ (2020.12.28) J
 - ImmunoTox Letter vol. 26, No.1 (通算51号) 発刊 (2021.7.10) JE
 - ImmunoTox Letter内 第28回学術年会 (予告2) ページ (2021.7.10) J
- (6) その他
 - 新規入会ページへの無料制度設置に関わるページの新設・改訂 (2021.3.5) J

2) 新HPリンクバナー広告の状況

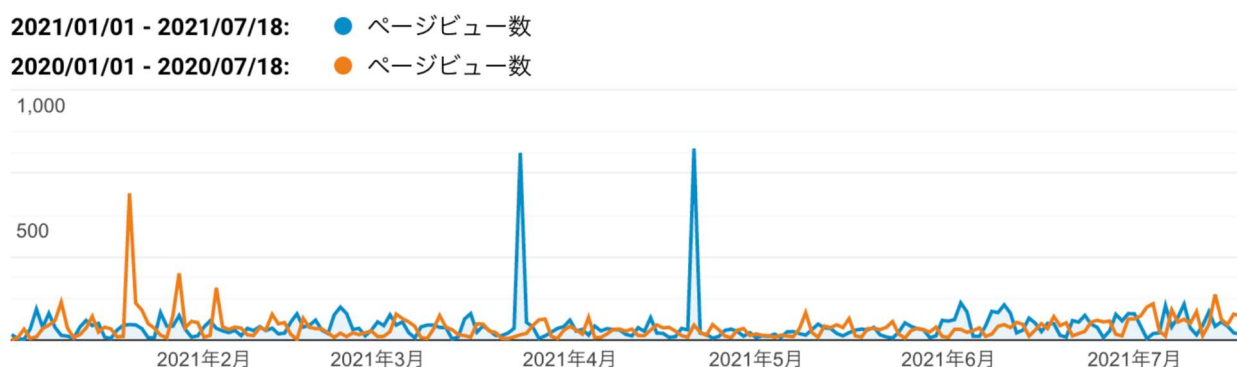
学会HPにおける企業バナー広告が無い状況が続いていた。そこで、契約要綱を再検討し改めた。価格の改定 (値引き) や初年度に月単位での柔軟な契約を実施し、またJSIT BLINC News (メール送信サービス) も付属する内容とした。これらの内容でリンクバナー広告の営業活動を行ったところ概ね好評で、上述の4件のバナー広告を契約した。

ベックマンコールター社の契約は終了したが、他3社 (ミルテニー、ライカ、フォーネスライフ) は

継続 (2021.4.30) J

3) JSIT HPのアクセス分析 (Googleアナリティクス, 2021年1月1日-7月18日)

トップページへのアクセスが増えたように数字上見えるが、2件の理由不明のアクセスピーク (合計1500 ページビュー程度) を除くと全体的に横ばい又はやや低調。Letter ディレクトリへのビューの低下はデザイン変更 (html ページの移動) などが関わると推察。他方、学術年会予告のリンクを新設・整理するなどして明確化したことで学術年会ディレクトリ、および新規入会ページ、へのビュー数は増加しており、HP改変の効果は出ている。



4) 学会Facebook pageによる発信 (<https://www.facebook.com/j.immunotox>)

学術年会の情報などについて投稿し発信してきた (2020年9月30日から13件)。平均エンゲージメント率は低い状況が続く。これは、投稿のシェアや、シェアへのアクションなどが発生していないということ。運営委員各位ならびに御配下各位がよりJSITのFacebook pageをフォローして頂き、投稿へのリアクションやシェアをして頂くことによりSNS によるJSIT の情報発信活性化に寄与すると考えられ、是非とも一層のご協力をお願いしたい。

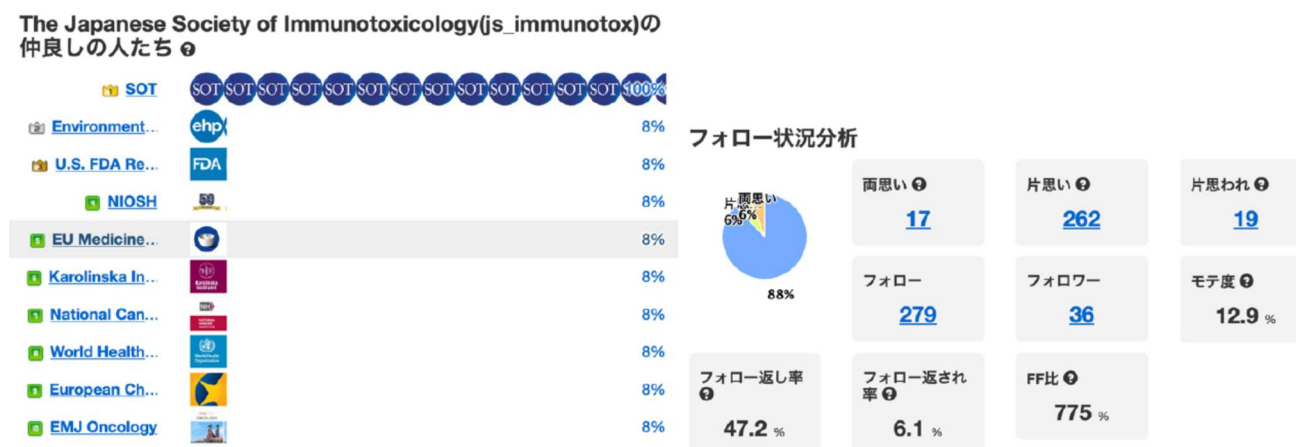
5) 学会Twitter アカウントによる発信 (https://twitter.com/js_immunotox)

Twitter での情報発信を以下に示す。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2019										9	10	2	21
2020	4	8	1			1	3		5			4	26
2021	7	2	1		2	3	5						20

前半はコロナ禍の状況もありSOT を意識した@SOToxicology を付けメンションしたツイートはあまり出来ていない。戦略的に、Letter記事のトピックを取り上げるなどして、継続的にツイートして頻度を上げていくことも必要。他方で、フォロワーは増加 (11→36、週刊医学界新聞 (6.5万)、エッペンドルフ (1.5万) からのフォローを獲得) した。また、関連する組織や団体のアカウントとの相互フォロ

ー (3→17、医学のあゆみ、「免疫アレルギー疾患研究10か年戦略」次世代タスクフォース“ENGAGE”、Naisbitt Hypersensitivity Group、Non-animal Approaches for Toxicity Testingなど)も増加した。関連する国内外の機関・組織のアカウントへのフォローを積極的に繰り返した結果と推察。



6) 次回JSIT BLINC News (バナー広告メール送信サービス, 2021-2022, vol1) の送信時期について

2021~2022 年は、前半は第 28 回学術年会の参加登録延長の一斉メール送信時に、後半は年明けを目的に配信することになった。

7) HP上の総会議事録、他関連情報の掲載について

2019年分までホームページ上に掲載していた総会の議事録および総会資料は今後も掲載し、これまで通り会員以外にも公開していく。

8) HPの整理、「技術情報」欄の新設

HPの現状を見直し、以下を提案する。

- ① 「資料・情報」欄内のリンク切れ情報を削除し、名称を「学会資料・情報」へ変更。
- ② 「リンク」欄内の「学会等ご案内」を全削除する。
- ③ 「エッセイ」欄内の記事を旧html版書庫へ移したのち本欄を削除する。
- ④ 新たに「技術情報」を新設し、「リンク」欄内の“WHO化学物質の免疫毒性評価ガイダンス (2012年3月)”を一先ず移す。学術・編集委員会と試験法委員会の連携の下、ワークショップ AOP、免疫毒性試験プロトコル、ICHガイドライン、試験ガイダンス、等の記事を適宜計画し、Letterへ掲載と共に本欄に随時掲載していく。
- ⑤ 「学会賞 奨励賞」欄の名称を「各種表彰」に変更し、横スペースを確保する

[3-3] 試験法委員会

1) 試験法ワークショップ

1-1) 2021 年 第 28 回学術年会の試験法 WS

下に示す内容を予定している。

テーマ 「in vitro 免疫毒性試験法の開発とガイダンス化に向けて」

1. Multi-ImmunoToxicity Assay のガイダンス化状況
東北大学病院 皮膚科 相場 節也 先生
2. 皮膚感作性試験（ADRA 試験）の開発
富士フィルム株式会社 藤田 正晴 先生
3. 皮膚感作性 -IATA に基づくガイドライン-
国立医薬品食品衛生研究所 足利 太可雄 先生

1-2) 2022 年 第 29 回学術年会の試験法 WS

試験法 WS は、原則、規制やテストガイドラインに関するトピックと新技術のトピックを 1 年ごとに開催することとしているが、近年、医薬品開発の免疫毒性に関するガイドラインである ICH S8 ガイドラインの改定が一部の団体から提案されている。試験法委員会で相談し、2022 年の年会では医薬品の免疫毒性評価の課題を取り上げる予定である。

2) AOP 検討小委員会

2-1) 委員（変更なし）

委員長：大石 巧

委員：足利 太可雄、伊藤 志保、大坪 靖治、串間 清司、小西 寿美恵、小松 弘幸、後藤 玄、杉本 潤一郎、田食 理沙子、秦 信子、福山 朋季、松村 匠悟、吉田 安宏

2-2) 先行開発の AOP

AOP154：Inhibition of Calcineurin Activity Leading to Impaired T-Cell Dependent Antibody Response

- 2021 年 6 月 17 日：WNT/WPHA に提出後、ドイツより改訂要求コメントを受領。
- AOP wiki 改訂作業及び回答案作成し、2021 年 7 月 7 月に回答書を提出した。
- 2021 年 7 月 23 日：WNT/WPHA から承認の連絡を受領した。10 月までに OECD HP に掲載される見通しである。

2-3) 開発中の AOP

現在、以下の 3 件の AOP を開発しており、AOP-wiki への登録が完了している。

(1) AOP315：JAK3 阻害による TDAR 抑制

後藤玄、福山朋季、吉田安宏

コーチ：Shihori Tanabe

AOP 案に対して、2020 年 10 月 15 日：コーチとの web ミーティングが開催され、AOP の修正を開始。修正案についてコーチと Developer が内容合意後に OECD へ Coach lead から連絡し、EAGMST

の approve 後に scientific review がオーガナイズされる。

(2) AOP313 :Toll 様受容体 (TLR) 7/8 活性化による乾癬様皮膚疾患の誘発

小松弘幸、秦信子、松村匠悟

コーチ :Julija Filipovska

AOP 案を 2021 年 1 月 27 日をコーチに提示し、修正改定を開始し、現在 AOP を修正中。

(3) AOP314 :エストロゲン受容体活性化による全身性エリテマトーデスの増悪

大坪靖治、小西寿美恵、伊藤志保、田食 理沙子

コーチ :Sabina Halappanvar

2020 年 9 月 17 日 :コーチからコメント受領し、コーチとの協議により AOP 修正を開始。現在、コーチコメントをもとに AOP wiki を修正中。

(4) AOP277 :IL-1R1 シグナル阻害による感染症の増加

相場先生、木村先生 (前東北大学) が作成されていた AOP277 について、職場が変わることによりレビュー対応や修正ができなくなることから、免疫毒性学会 AOP 検討委員会にて引き継いでもらえないかとの打診あり。AOP のコンテンツ (KE の構成等) に大きな修正が生じない場合のみ引き受ける方向で回答した。

3) JaCVAM 関連

➤ MITA (Multi-Immunotoxicity Assay) Validation Management Team Meeting への参加

➤ JaCVAM ステークホルダー会議への参加 (2021 年 6 月 1 日)

AOP 活動を中心に JSIT の JaCVAM との関りについて紹介した。

➤ 査読依頼

昨年、国立衛研の小島先生より依頼があった In vitro 免疫毒性試験の関する総説のコメント対応後の修正版について査読依頼があったため、試験法委員会で対応した。

[3-4] 連携学会委員会 (吉岡委員)

1) SOT2022 (3/27-31、サンディエゴ) における ITSS との合同シンポジウム 申請せず

下記の提案を予定したが、申請が叶わなかった。

Immunotoxicity of essential and non-essential metals by environmental and occupational exposure

JSIT 演者: 木戸尊将先生 (東京慈恵会医科大学)

JSIT 演者：黒石智誠先生（東北大学）

12 月頃から ITSS に連絡し、SOT2023 での採択を目指す。

2) 日本毒性学会で 合同シンポジウムを実施

第 48 回日本毒性学会学術年会

会期：2021 年 7 月 7 日（水）～ 7 月 9 日（金）

開催地：兵庫県神戸市

会 場：神戸国際会議場

年会長：福井 英夫（Axcelead Drug Discovery Partners, Inc.）

シンポジウム開催日時：7 月 9 日：9 時～11 時 30 分

- ・会場に 30-40 名程度、web で 200-250 名程度
- ・盛況かつ極めて有意義なシンポジウムであった。このような内容の研究者も、今後、免疫毒性学会に参加頂けると学会の発展に繋がると思われる。
- ・再来年度（2023 年 6 月 19 日～21 日 パシフィコ横浜 北嶋聡先生）においても開催予定

3) 28 回日本免疫毒性学会学術年会における特別講演

Dr. Jeanine Bussiere (Amgen) : web 開催

4) 第 29 回日本免疫毒性学会学術年会における特別講演

Dr. Jamie C. DeWitt (Professor, Department of Pharmacology & Toxicology, East Carolina University)

[3-5] 将来構想委員会（黒田委員・吉岡委員）

1) 入会初年度年会費無料制度（筆頭発表者対象）

第 25 回（つくば）	：非会員発表 6 名	その後入会 1 名	一般入会 6 名
第 26 回（北九州）	：非会員発表 8 名	その後入会 1 名	一般入会 6 名
第 27 回（WEB）	：非会員発表 8 名	その後入会 0 名	一般入会者 11 名
第 28 回（4 月以降）	：無料制度 5 名(ただし 2 名は発表者になっていない)		一般入会 2 名 学生 6 名

（山浦先生、浅野様からの情報 8/27 現在）

2) オンライン聴講のみの学会参加に関して

アンケートより初年度年会費無料制度で、発表はないが聴講だけでも対応して欲しいというコメントがありました。もちろん発表がないので無料制度の対象にはなりません。ただ、今後シンポジウムや特別講演に関してオンライン配信の要望が出てくると思われます。オンライン配信について将来構想委員と事前にメー

ルにてディスカッションを行ったところ、技術、金銭的にもライブは難しいというコメントがありました。またもしするとしても、オンデマンド配信がいいのでは？という話が上がりました。そもそもオンデマンド配信を学会員が要望しているかどうか、調べる必要があるかと感じました。今後検討を継続します。

3) シンポジウムへの若手登用について

若手をシンポジストにした企画について議論しました。若手同士の活性化やシンポジストの若手に当学会に興味を持ってもらうことを狙いとしています。一方で、年会を開催される年会長にもそれぞれのお考えや年会のテーマもあるかと思えます。年会長の方針も反映され、若手研究者同士の交流も深まることを期待しています。

[4] 2020 年度事業報告（活動年度：2020 年 10 月から 2021 年 9 月まで）

1. はじめに

2020 年度も新型コロナウイルスの感染が収まらず、第 28 回学術年会（年会長：手島玲子 先生）もオンライン開催となりました。第 61 回米国トキシコロジー学会年会（2022 年）に向けて提案してきた当学会と米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会（SOT-ITSS）との共同シンポジウムにつきましては、残念ながら同学会本部には提案されませんでした。第 62 回米国トキシコロジー学会年会（2023 年）での提案に向けて態勢を整えています。隔年で企画される日本毒性学会との合同シンポジウムは、第 48 回日本毒性学会学術年会（2021 年）で「多様な医薬品モダリティに対応する免疫毒性研究の最前線」のテーマで開催されました。JaCVAM から委託を受けた事業に関しては AOP 開発に多くの学会員が関わり貢献しました。

2020 年度の活動につきまして、以下にご報告いたします。

2. 事業内容（活動年度：2020 年 10 月から 2021 年 9 月まで）

1) 理事会の開催

2021 年 9 月 3 日に、オンラインで開催されました。

2) 総会・評議委員会の開催

2021 年 9 月 8 日から 14 日の投票期間にメールベースで開催されました。

3) 第 28 回日本免疫毒性学会学術年会の開催

第 28 回日本免疫毒性学会学術年会は、2021 年 9 月 6 日（月）～7 日（火）の会期でオンライン開催されました。年会長は手島玲子 理事（岡山理科大学 獣医学部 食品衛生講座）で、テーマは「自然免疫と獲得免疫のかかわりと免疫毒性」でした。

URL： <http://www.jsit2021.jp>

4) ImmunoTox Letter の発行

下記の 2 号（日本語版、英語版）を刊行しました。

25 巻第 2 号（通巻 50 号、2020 年 12 月号）

26 巻第 1 号（通巻 51 号、2021 年 6 月号）

5) 第 11 回（2021 年）学会賞及び奨励賞の授与

学会賞は「ダイオキシンの免疫毒性作用とそのメカニズム」の研究で野原恵子 先生（国立環境

研究所 環境リスク・健康研究センター) が、奨励賞は「骨髄由来免疫抑制細胞を介した免疫毒性発現に関する研究」で立花雅史 先生 (大阪大学大学院 薬学研究科附属創薬センター) が受賞されました。副賞として記念品が授与されました。

6) 第 29 回日本免疫毒性学会学術年会 (2022 年) の開催準備

第 29 回日本免疫毒性学会学術年会は、小島弘幸 理事を年会長として開催の準備が進められています。

期日：2022 年 9 月 12 日 (月) ~13 日 (火)

会場：ACU 札幌 アスティ 45

年会長：小島弘幸 (北海道医療大学薬学部 衛生薬学講座)

テーマ：免疫毒性と疾患—新たな 軌跡を描く—

7) 第 61 回米国トキシコロジー学会年会 (2022 年、San Diego) での共同シンポジウム

SOT-ITSS との共同シンポジウムとして “Immunotoxicity of essential and non-essential metals by environmental and occupational exposure” を計画したが、SOT 本部への提案には至りませんでした。

8) 第 30 回日本免疫毒性学会学術年会 (2023 年) の開催地及び年会長の決定

第 30 回日本免疫毒性学会学術年会の年会長については、理事会 (2021 年 9 月 3 日) において斎藤嘉朗 先生 (国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部) が推薦されました。

9) 関連学会等との連携企画の開催

第 28 回免疫毒性学会学術年会は、第 78 回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会との共催としました。

第 48 回日本毒性学会学術年会 (2021 年、神戸・ハイブリッド開催) では、以下の内容で日本免疫毒性学会合同シンポジウムを開催しました。会場参加が 30~40 名、Web 参加が 200~250 名と盛況かつ有意義なシンポジウムになりました。

テーマ：「多様な医薬品モダリティに対応する免疫毒性研究の最前線」

座長：西村 泰光 (川崎医科大学)、串間 清司 (アステラス製薬)

演題：

- ① miRNA による遺伝子発現制御機構を利用した次世代アデノウイルスベクターの開発と肝障害誘導機構の解明：櫻井文教、水口裕之 (大阪大学大学院ほか) ,
- ② 核酸医薬の自然免疫活性化の評価手法に関する考察：
井上貴雄 (国立医薬品食品衛生研究所)
- ③ 抗体医薬品の免疫原性の非臨床評価及び低減化：久保千代美 (中外製薬)
- ④ 細胞治療に用いる間葉系幹細胞加工製品の品質、有効性及び安全性評価の課題：
澤田留美 (国立医薬品食品衛生研究所再生・細胞医療製品部)
- ⑤ 非ヒト霊長類モデルを用いたワクチン・アジュバントの免疫毒性研究：
山本拓也 (医薬基盤・健康・栄養研究所)

3. 事務局及び諸委員会の活動

運営委員会 (2020 年 12 月 24 日及び 2021 年 7 月 22 日) では、会務運営や学術年会開催準備等

について議論されました。各委員会等の活動は次の通りです。

1) 事務局（山浦理事）

- ・ 会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務
- ・ 外部からの問い合わせ対応

2) 財務(委員長：小池理事)

- ・ 財務管理
- ・ 決算書及び予算書の作成

3) 学術・編集委員会（委員長：小島理事）

学会賞、奨励賞推薦の取りまとめを行いました。また新藤編集委員長のもと ImmunoTox Letter の編集・発行を年 2 回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図りました。また、英語版の発行も継続しています。

4) 広報委員会（委員長：西村理事）

学会賞・奨励賞応募案内、ImmunoTox Letter 関連ページの更新、年会お知らせ等、継続して学会ホームページの更新を行い、英文ホームページの充実に努めました。学会 Facebook ページ、Twitter アカウント js_immunotox からの発信も積極的に行いました。また、バナー広告の募集要領を整備し、掲載企業の獲得に努めました。年会では、次回年会の案内や賛助会員やバナー広告掲載企業への謝辞を述べたセッション間のスライド作成にもあたりました。

5) 試験法委員会（委員長：串間理事）

第 28 回免疫毒性学会学術年会の試験法ワークショップは、「*In vitro* 免疫毒性試験法の開発とガイダンス化に向けて」と題して、3 名の先生方に OECD 試験法ガイダンスとしての採択に近い Multi-ImmunoToxicity Assay、皮膚感作性評価のための ADRA 試験および IATA 試験について講演いただきました。様々な *in vitro* 評価系の検討が進む中、試験法ガイダンス化までの経験を紹介いただき、*in vitro* 試験法開発の促進の一助となることが期待されます

- ・ AOP 小委員会（委員長：大石 巧 委員）

JaCVAM から日本免疫毒性学会が作成依頼を受けた OECD AOP (Adverse Outcome Pathway) における免疫毒性に関する AOP (Adverse Outcome Pathway) 開発に関して、14 名の本学会員からなる AOP 小委員会が対応しました。

現在、以下の AOP の開発に取り組んでいます。

AOP154: Inhibition of calcineurin activity leading to impaired T-cell dependent antibody response

AOP315: JAK3 阻害による TDAR 抑制

AOP313: Toll 用受容体 (TLR) 7/8 活性化による乾癬様皮膚疾患の誘発

AOP314: エストロゲン受容体活性化によるエリテマトーデスの増悪

AOP277: IL-1R1 シグナル阻害による感染性の増加

このうち、AOP154 に関しては外部レビューアーによるコメントに対応し、2021 年 7 月 7 日には最終化承認依頼がされています。AOP277 についても、今後 AOP 検討小委員会に対応することになりました。

・ JaCVAM 関連

MITA Validation Management Team Meeting に参加しました。JaCVAM ステークホルダー会議では、日本免疫毒性学会試験法委員会の AOP 取り組みについて紹介しました。In vitro 免疫毒性試験法に関する総説案を試験法委員会で査読しました。

6) 連携学会委員会（委員長：角田理事、吉岡理事）

第 28 回日本免疫毒性学会学術年会を第 78 回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会との共催としました。

SOT-ITSS の Mitchell Cohen 先生の協力のもと、第 29 回日本免疫毒性学会学術年会(2022 年)の特別講演に Jamie DeWitt 教授 (Department of Pharmacology & Toxicology, Brody School of Medicine, East Carolina University) を指名しました。小島年会長の招聘に応え、DeWitt 先生から講演の承諾を得ました。

SOT-ITSS との共同シンポジウムについては、引き続き第 63 回同年会 (2023 年) に向けて提案を続けています。

第 48 回日本毒性学会学術年会(2021 年)における日本免疫毒性学会合同シンポジウムとして、「多様な医薬品モダリティに対応する免疫毒性研究の最前線」を企画しました。

7) 将来構想委員会（委員長：黒田理事）

第 25 回日本免疫毒性学会学術年会から開始された「非会員でも 1 回に限り年会参加費のみで演題発表できる」制度については、「非会員の入会初年度年会費無料制度」に移行して、規定を学会 HP に掲載しました。

4. 決算

1) 2020 年度決算（会計年度：2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）

別紙のとおりです。

II. 審議事項

[1] 会計

1) 2020 年度決算（会計年度：2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）

会計監査も実施されました。

[2] 人事

1) 名誉会員

本年度は該当者なし。

2) 理事

変更なし。

3) 評議員

2021 年 7 月 13 日から 8 月 16 日の期間、評議員 2 名による推薦を受け付けました。理事会において略歴と業績、推薦書を Web 上で共有して確認されました。その結果、黒石智誠 先生（東北大学大学院歯学研究科 口腔生物学講座、会員番号：717）が推薦されました。

4) 第 30 回日本免疫毒性学会学術年会（2023 年）年会長

理事会によって以下の方が推薦されました。

齋藤嘉朗 先生（国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部）

[3]事業計画（活動年度：2021 年度：2021 年 10 月から 2022 年 9 月まで）

1. はじめに

2021 年度も引き続き学会の運営基盤の一層の強化と国内外における学術活動を展開します。2022 年 9 月には第 29 回学術年会の開催を予定しています。日本毒性学会などの国内関連学会をはじめ米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会（SOT-ITSS）との交流も継続して参ります。同時に、本学会に期待される学術的専門性に対する責任を果たすべく、本学会が委託を受ける事業についても積極的に取り組みます。

学会の持続的発展を可能とするため、引き続き世代交代と人材養成を図ります。

会計年度は 4 月から翌年 3 月の期間としています。また、補充役員の任期に関しましては、10 月 1 日から任期開始とし、任期満了日は既役員の満了日と同一日とすることとしています。

2. 事業内容（活動年度：2021 年 10 月から 2022 年 9 月まで）

1) 理事会開催

2022 年 9 月に札幌にて開催の予定です。

2) 総会・評議委員会の開催

2022 年 9 月に札幌にて開催の予定です。

3) 第 29 回日本免疫毒性学会学術年会（2022 年）の開催

小島弘幸 理事を年会長に 2022 年 9 月 12 日（月）～13 日（火）の会期で ACU 札幌 アスティ 45 において開催いたします。テーマは「免疫毒性と疾患－新たな 軌跡を描く－」です。

4) ImmunoTox Letter の発行

下記の 2 号の刊行を予定しています。

26 巻第 2 号（通巻 52 号、2021 年 12 月号）

27 巻第 1 号（通巻 53 号、2022 年 6 月号）

5) 学会賞及び奨励賞の選考

第 12 回（2022 年）学会賞・奨励賞の選考を行います。

6) 第 30 回日本免疫毒性学会学術年会の準備

第 30 回日本免疫毒性学会学術年会（2023 年）の年会長は、理事長が委嘱した者について総会で承認を受けたのち、企画が開始されます。

7) 関連学会等との連携

関連学会等との連携により、免疫毒性をテーマとした学術集会等を企画します。

第 29 回日本免疫毒性学会学術年会（札幌、2022 年）を第 79 回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会と共同開催します。

日本毒性学会との合同シンポジウムの開催は隔年で行われることになっており、第 49 回日本毒性学会学術年会（2022 年）での開催はありません。

第 62 回米国トキシコロジー学会学術年会（2023 年）において、SOT-ITSS との合同シンポジウム開催を企画します。

3. 事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を予定し、詳細は運営委員会（2021 年 12 月及び 2022 年 7 月に開催予定）で検討されます。

1) 事務局（山浦理事）

- ・会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務
- ・外部からの問い合わせ対応

2) 財務（委員長：小池理事）

- ・財務管理
- ・決算書及び予算書の作成

3) 学術・編集委員会（委員長：小島理事）

ImmunoTox Letter の編集・発行を年 2 回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図ります。また、英語版の発行も継続して行います。

第 12 回（2022 年）学会賞及び奨励賞の選考のため、学会賞等選考小委員会委員長を指名し、受賞候補者の選考を依頼します。

4) 広報委員会（委員長：西村理事）

継続して学会ホームページの定期的な更新を行い、英文ホームページの充実に努めるとともに、Facebook 及び Twitter からの発信を積極的に行います。また、バナー広告企業を新たに増やすため、勧誘を行います。

5) 試験法委員会（委員長：串間理事）

ICH において、医薬品開発の免疫毒性評価に関する ICH S8 ガイドラインの改定が提案されたことを踏まえて、第 29 回学術年会（札幌、2022 年）では、医薬品の安全性評価の課題をテーマにワークショップを開催します。

JaCVAM から日本免疫毒性学会が依頼を受けた AOP (Adverse Outcome Pathway) の開発に引き続き取り組んでいきます。

6) 連携学会委員会（委員長：角田理事、吉岡理事）

SOT-ITSS の協力のもと、第 30 回学術年会（2022 年）の特別講演の講師を選考いたします。

日本毒性学会学術年会での合同シンポジウムは隔年で企画されることになっているため、第 49 回学術年会（2022 年、札幌）において、合同シンポジウムの開催予定はありません。第 50 回学術年会（2023 年、横浜）に向けての準備を始めます。

SOT2022 における SOT-ITSS との共同提案によるシンポジウムを提案できなかったことから、12 月ごろより ITSS との連絡を密にして、SOT2023 における合同シンポジウムの企画を進めます。SOT2022 での ITSS ミーティングには西村泰光先生及び福山朋希先生に出席いただく予定です。

7) 将来構想委員会（委員長：黒田理事）

学会の持続的発展を可能とするため、特に若手会員の新規参入者を増やすための方策について検討を続けます。年会やシンポジウムの形態について模索します。

4. 予算

- 1) 2021 年修正予算（会計年度：2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）
- 2) 2022 年度予算（案）（会計年度：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

いずれも、別紙のとおりです。